

伝承を有効に機能させるための試み

京都大学防災研究所 教授
人と防災未来センター
震災資料研究主幹
牧 紀男

記録する、保存する、活用する

記録する

- 復興の営みを記録すること

復興モニタリングプロジェクト

復興のプロセスを記録する

東日本大震災に大きな被害を受けた地域では復興が始まったところです。一方、被災地に対する世間の関心も薄れ始めています。

京都大学では、少しでも世の中の関心を集めることを主たる目的に、阪神淡路大震災の長田区や台湾集集地震の被災地の復興過程をモニタリング・配信してきた経験を活かし、東日本大震災の被災地の「日々のまちの変化」を記録し、インターネット配信するプロジェクトを企画しました。

2020年までの7年間、宮城県と岩手県の被災地から、「まち」「街並み」「にぎわい」の3テーマで20地域を選定し、各地域の復興プロセスをWebカメラでモニタリング。復興の様子は、インターネットで常時配信します。

各地のカメラ

東日本大震災

- UR都市機構大槌復興支援事務所（大槌町）
- 陸前高田市（鰯浦様宅 2016.7.23から / みんなの家 2016.7.19まで）
- 大槌町町方復興CMRカメラ（大槌町）
- 石巻中心部
- 松川横町（東向き） | 松川横町（西向き） | アイトピア商店街

阪神・淡路大地震

- 神戸市長田区御蔵地区

Copyright© 2013 復興モニタリングプロジェクト All rights reserved.

上 デスクト

保存する

人と防災未来センター資料室

3名の資料専門員

- 資料点数
 - 一次資料約19万点
 - 二次資料約4万点
- 資料公開についての確認
 - 公開できてこそ資料が生きる
 - 震災から22年が経過し、だんだんと連絡がむづかしく

所蔵する資料

2017年3月末現在

阪神・淡路大震災の被災状況を物語るもの、被災地の復旧・復興過程において使用・作成されたもの
＊収蔵庫に保管されています。閲覧には申請書が必要です。

モノ	5時46分で止まった時計、 ボランティア基地や仮設住宅の看板など
紙	被災者の日記や手記、避難所の日誌・チラシ、 ボランティアの活動記録など
写真	倒壊した建物や被災したまちの風景、仮設住宅、 救援やボランティア活動の様子など
映像・音声	被災者が撮影した震災時の映像、 地元コミュニティFM局のテープなど

阪神・淡路大震災およびその他の災害・防災関連の刊行物
＊ 賀賀室内に閲覧しています。
どなたでも自由に閲覧できます（貸出は一部収録資料のみ）

図書	阪神・淡路大震災関連資料、災害・防災関連図書、 地域防災計画図書、各種写真集、震災関連一般図書など
雑誌	学会誌、建築・自然科学系雑誌、防災関連雑誌など
視聴覚	阪神・淡路大震災や防災関連の映像資料、 音楽や音声が収められたCD、CD-ROMなど
その他	地図、リーフレットや広報誌、ちらし、 防災計画ガイドラインなど

活用する

災害メモリアルアクションKOB

集める・伝える・活かす

災害メモリアルアクションKOB
ACTION 2016

テーマ：**神戸のコトバ**

参加無料

活動報告会

2016.1.9 [SAT]
10:00→12:30

開催場所：淡路大震災記念
人と防災未来センター

これまで、「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と警戒をまとめた「災害メモリアルアーカイブス・イン・神戸(1995~2005年)」、そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアルKOB(E)(2006~2015年)」を実施してきました。そして、2015年度からこの先の10年を見越す、「災害メモリアルアクションKOB(E)」という組織みを開始しました。

参加学生の数は、淡路大震災を通じて、災害教訓を「活かす」とされてきた人材を育成するとともに、若者の組織みをいろいろな場所で世代へ広げていくためをめど、今後の教訓を語らうことに専らすることを目指しています。

主 催：人と防災未来センター、防災大学院大学防災社会研究科防災教育研究会
主 催：災害メモリアルアーカイブス・イン・神戸
主 催：淡路大震災記念施設・淡路大震災記念館、淡路大震災記念施設・淡路大震災記念施設・淡路大震災記念施設、淡路大震災記念施設

日程
10:00 開会・挨拶
10:10 活動発表
11:25 スペシャルプレゼンテーション
TVドキュメント「淡」
11:35 パネルディスカッション
「神戸のコトバ」

12:25 閉会・挨拶（講師）

災害メモリアルアクションKOB
ACTION 2016

兵庫県立播磨高校

兵庫若者防災ネットワーク

新田のステキ「再発見」

関西大学 社会安全学部 近藤研究室

主 催：人と防災未来センター、防災大学院大学防災社会研究科防災教育研究会
主 催：災害メモリアルアーカイブス・イン・神戸
主 催：淡路大震災記念施設・淡路大震災記念館、淡路大震災記念施設・淡路大震災記念施設・淡路大震災記念施設、淡路大震災記念施設

セミナーのテーマ
神戸のコトバ

初年度となる今年度は、「神戸のコトバ」をテーマに、グループ毎に参加を希望した学生が神戸・淡路大震災で被災した経験などに入り、インタビュー、アンケート、空港事業などを公演・活用しました。今後の進展に「活かす」実践として、報告するとともに、今後の活動について考えます。

国際明石工業高等専門学校 防災環

D-PRO13S(明石高専防災団)は、明石高専で競技士を指導した学生による最新技術です。今回は、競技ゲームの製作を行いました。ゲームを通して、プレイヤーに楽しみながら防災意識を高めてもらうことを目指します。製作にあたり、組み合の練習、競技運営者のビデオイング、各種収集を行ってきました。専門連携パターンで述べよう。4種のボーリング台の組合せ、専門連携監修計といった条件を設定し、ゲーム(競技用)を目指す、チーム制のボードゲームです。ぜひ、ゲームに挑戦してみてください。

神戸学院大学 復元社会学部 社会防災学科 板本ゼミ

主 催：人と防災未来センター、防災大学院大学防災社会研究科防災教育研究会
主 催：災害メモリアルアーカイブス・イン・神戸
主 催：淡路大震災記念施設・淡路大震災記念館、淡路大震災記念施設・淡路大震災記念施設、淡路大震災記念施設

震災資料語り

http://www.dri.ne.jp/exhibition_materials

震災資料語り | 人と防災未来センター

www.dri.ne.jp/exhibition_materials

よく見るページ 自分 MUFGカードWEBサービス 京都大学教職員用認証... 京都大学全学共通教... 三井東京UFJ銀行 iCloud フランスホテル 丸善&ジンク堂書店 京大容量データ送信 無料大容量ファイル転...

DRI 阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター 震災資料語り
～ものがたり～

センター概要 観覧案内 資料 調査研究 研修事業 お知らせ アクセス リンク
目標・計画・評価 展示ガイド 収集保存 災害レポート

震災資料語り ～ものがたり～



走っている道路が、目の前から崩れ落ちた。
運転手の急ブレーキが、バスの乗客を救った。
(写真パネル)高速道路から今にも落ちそうなバス

1300322-000175
寄贈者:神戸元氣村

阪神高速道路3号神戸線が崩れ落ちた様子は、報道でも大きく取り上げられ、日本中に大きな衝撃を与えました。高速バスに乗っていた人々は間一髪で助かりましたが、いつどこでいる時に地震が起こるかはわかりません。その時、行動できるでしょうか。

デスクトップ



寒い。あたたかいものが食べたい。
どうすれば、それが叶うのですか。

炊き出し用大鍋、炊き出して最初に提供されたうどんの器、連日の炊き出し風景
一回の食事に2千人が並ぶ

250-022001, 1200792-000011, 1300322-000166
寄贈者:瀬中央地区ボランティア、森原良美氏、神戸元氣村

阪神・淡路大震災は、凍えるように寒い真冬の1月に発生しました。被災者は、あたたかい食事を欲して、壊れた家屋から資材を集め、火を焚き、水や調理器具を調達し、自ら炊き出しを始めました。熱い気持ちで提供された食事は、地域の人びとに分かち合われました。また、他地域から食材と調理機材を携えて支援に訪れた人びとの有難さも噛みしめられました。現在、震災資料として保存されている調理器具は、当時の人びとの繋がりとあたたかさを伝えています。

いいね! シェア ツイート